

令和7年度国際関係学部一般選抜A個別方式（第1期）出題意図について

歴史総合，世界史探究

国際関係学部で学修する内容を踏まえ，地域を跨いだグローバル史の基礎知識を身につけているかを確認する問題となるよう心がけた。

大問1

古代オリエントはその後の世界各地の歴史に影響を与えた文明を生み出した地域である。本問は，世界史をより巨視的に捉えるために必要となる古代オリエントにおける社会，宗教，文化等に関する基本的な理解を正誤問題の形で問うものである。

大問2

11世紀における東アジア地域の政治の流れ，そして文化の発展についての設問である。特に年代ごとに地域の様子が具体的に理解できているかについてを重視する略年表形式の出題となっている。これにより東アジア地域発展の通時的理解と，さらに各地域が発展していく過程での相互関連について，充分理解ができているのかを明らかにする出題となっている。

大問3

西欧・キリスト教世界とアジア・イスラム教世界をまたいでダイナミックに発展したオスマン帝国 600年の歴史の流れを追いながら，世界史の新カリキュラムで重視されているアジア・アフリカ史を世界史の大枠に位置つける能力が身につけていることを確認する出題をした。さらに，オスマン帝国がヨーロッパ史の政治的・文化的な発展にも大きな影響力を及ぼしたことが理解できていることを確認する出題もした。

大問4

ロシア・ウクライナ戦争によって国際秩序が大きく揺れ動いている状況を念頭に，約1世紀前にあたる戦間期の国際情勢に関する知識を問うことを意図した。第一次世界大戦後の欧米諸国による国際平和に向けた秩序形成の動きとその動揺から第二次世界大戦へと至る過程について理解しているかを確認した。政治外交面だけでなく，経済面における影響についても出題した。